

◎礼拝説教：2020年5月24日

◎説教者：中村準一 牧師

◎タイトル：信仰者としてあるべき姿

◎今日の聖書：ヨブ記1章1-22節

1ウツの地にヨブという人がいた。無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きていた。2七人の息子と三人の娘を持ち、3羊七千匹、らくだ三千頭、牛五百くびき、雌ろば五百頭の財産があり、使用人も非常に多かった。彼は東の国一番の富豪であった。

4息子たちはそれぞれ順番に、自分の家で宴会の用意をし、三人の姉妹も招いて食事をすることにしていた。5この宴会が一巡りするごとに、ヨブは息子たちを呼び寄せて聖別し、朝早くから彼らの数に相当するいけにえをささげた。「息子たちが罪を犯し、心の中で神を呪ったかもしれない」と思ったからである。ヨブはいつもこのようにした。

6ある日、主の前に神の使いたちが集まり、サタンも来た。7主はサタンに言われた。

「お前はどこから来た。」

「地上を巡回しておりました。ほうぼうを歩きまわっていました」とサタンは答えた。

8主はサタンに言われた。

「お前はわたしの僕ヨブに気づいたか。地上に彼ほどの者はいまい。無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きている。」

9サタンは答えた。

「ヨブが、利益もないのに神を敬うでしょうか。10あなたは彼とその一族、全財産を守っておられるではありませんか。彼の手の業をすべて祝福なさいます。お陰で、彼の家畜はその地に溢れるほどです。11ひとつこの辺で、御手を伸ばして彼の財産に触れてごらんください。面と向かってあなたを呪うにちがいありません。」

12主はサタンに言われた。

「それでは、彼のものを一切、お前のいいようにしてみるがよい。ただし彼には、手を出すな。」

サタンは主のもとから出て行った。

13ヨブの息子、娘が、長兄の家で宴会を開いていた日のことである。14-15ヨブのもとに、一人の召使いが報告に来た。

「御報告いたします。わたしどもが、牛に畑を耕させ、その傍らでろばに草を食べさせておりますと、シェバ人が襲いかかり、略奪していきました。牧童たちは切り殺され、わたしひとりだけ逃げのびて参りました。」

16彼が話し終らないうちに、また一人が来て言った。

「御報告いたします。天から神の火が降って、羊も羊飼も焼け死んでしまいました。わたしひとりだけ逃げのびて参りました。」

17彼が話し終らないうちに、また一人来て言った。

「御報告いたします。カルデア人が三部隊に分かれてらくだの群れを襲い、奪っていきました。牧童たちは切り殺され、わたしひとりだけ逃げのびて参りました。」

18彼が話し終らないうちに、更にもう一人来て言った。

「御報告いたします。御長男のお宅で、御子息、御息女の皆様が宴会を開いておられました。19すると、荒れ野の方から大風が来て四方から吹きつけ、家は倒れ、若い方々は死んでしまわれました。わたしひとりだけ逃げのびて参りました。」

20ヨブは立ち上がり、衣を裂き、髪をそり落とし、地にひれ伏して言った。

21「わたしは裸で母の胎を出た。

裸でそこに帰ろう。

主は与え、主は奪う。

主の御名はほめたたえられよ。」

22このような時にも、ヨブは神を非難することなく、罪を犯さなかった。

◎宣教

ウツの地にヨブという人がいた。彼は神を恐れ正しい人であり、悪から遠ざかっていた。また豊かな財産と多くの子どもに恵まれていた。その頃、天上ではサタン（告訴人）が主の前に現れる。主はヨブの敬虔さをほめるが、サタンは主に反論する。「ヨブは理由もなしに神を恐れましょうか」と。ヨブは下心があって敬虔を装っているだけであり、必ずや、そこには打算的な理由があると主張するのです。ヨブ記は「正しい人（義人）が、なぜ苦しまなければならないのか」という命題がテーマであるが、同時に「人間は目に見える利益なしに、純粹に神を信じることができるだろうか」という神への信仰も重要な問いかけとして扱っている。サタンは主にヨブの所有財産などを奪う試みを提案し、主はヨブの信仰を試すために、サタンの活動を許される。こうして義人ヨブに、思いがけない災難が次々と襲い、彼は一瞬にして財産を失い、また愛する子供たちまで失ってしまった。だがヨブの反応は、サタンの主張、予想とは真逆であった。ヨブは言う「主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな」と、なおも神を讃美するのであった。ここに、平安の時も、悲しみの時も、主の御名をほめたたえて生きる真の信仰者としてのあるべき姿を、知ることができる。このヨブの信仰は、新型コロナウイルス感染による試練の中にいる私たちを、大いに励まし勇気づけると同時に、私たち信仰者への問いかけでもある。